

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.1	
Q1 室内環境						0.31		-	3.0	
1	音環境				3.8	0.15	-	-	3.8	
	1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	-	-		
	1.2 遮音				4.6	0.40	-	-		
	1	開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2		5.0	0.60	-	-		
	2	界壁遮音性能	Dr=40		4.0	0.40	-	-		
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—			-	-	-		
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—			-	-	-		
	1.3 吸音		床、天井の二面に吸音材を使用		4.0	0.20	-	-		
2	温熱環境				2.3	0.35	-	-	2.3	
	2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-		
	1	室温	—		3.0	0.38	-	-		
	2	外皮性能	断熱性能の高い外皮材料を使用		4.0	0.25	-	-		
	3	ゾーン別制御性	—		3.0	0.38	-	-		
	2.2 湿度制御		—		2.0	0.20	-	-		
	2.3 空調方式		—		1.0	0.30	-	-		
3	光・視環境				3.1	0.25	-	-	3.1	
	3.1 昼光利用				1.8	0.30	-	-		
	1	昼光率	—		1.0	0.60	-	-		
	2	方位別開口	—			-	-	-		
	3	昼光利用設備	—		3.0	0.40	-	-		
	3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
	1	昼光制御	—		3.0	1.00	-	-		
	3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能		5.0	0.25	-	-			
4	空気質環境				3.6	0.25	-	-	3.6	
	4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
	1	化学汚染物質	天井裏を含めほぼ全面的にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	-	-		
	4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
	1	換気量	—		3.0	0.33	-	-		
	2	自然換気性能	—		3.0	0.33	-	-		
	3	取り入れ外気への配慮	給気は、各種排気と同方位であるが6m以上離れている		4.0	0.33	-	-		
	4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
	1	CO ₂ の監視	—		3.0	0.50	-	-		
2	喫煙の制御	—		3.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.3	
1	機能性				2.9	0.40	-	-	2.9	
	1.1 機能性・使いやすさ				2.0	0.40	-	-		
	1	広さ・収納性	—		1.0	0.33	-	-		
	2	高度情報通信設備対応	—		2.0	0.33	-	-		
	3	バリアフリー計画	—		3.0	0.33	-	-		
	1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
	1	広さ感・景観	天井高:2.9m以上		5.0	0.33	-	-		
	2	リフレッシュスペース	—		3.0	0.33	-	-		
	3	内装計画	—		3.0	0.33	-	-		
	1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
	1	維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計を行っている		4.0	0.50	-	-		
	2	維持管理用機能の確保	—		3.0	0.50	-	-		
	2	耐用性・信頼性				3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-			
1		耐震性(建物のこわれにくさ)	—		3.0	0.80	-		-	
2		免震・制震・制振性能	—		3.0	0.20	-		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.30	-	-			
1		躯体材料の耐用年数	—		3.0	0.20	-		-	
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		2.0	0.20	-		-	
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数の長い内装仕上げ材を使用(タイルカーペット等)		4.0	0.10	-		-	
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	-		-	
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数の長い配管材を使用(塩ビライニング鋼管、硬質塩化ビニル管)		5.0	0.20	-		-	
6		主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-		-	
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			
1		空調・換気設備	—		3.0	0.20	-			-
2		給排水・衛生設備	—		3.0	0.20	-			-
3		電気設備	—		3.0	0.20	-			-
4		機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス		4.0	0.20	-			-
5		通信・情報設備	—		2.0	0.20	-			-

3	対応性・更新性			4.2	0.30	-	-	4.2
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60		-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満	5.0	0.40		-	
	3.2 荷重のゆとり		積載荷重の割増がある	5.0	0.30		-	
	3.3 設備の更新性			3.2	0.40		-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20		-	
	3	電気配線の更新性	仕上材、構造部を痛めず更新が可能である	5.0	0.10		-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10		-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20		-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.39	-	-	3.1
1	生物環境の保全と創出		緑地管理計画の作成や豊富な緑の量を確保する計画	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	3.6
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能の高い躯体構成及び建築材を使用	4.3	0.20	-	-	4.3
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		効率のよい設備機器を導入	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00		-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50		-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50		-	
	集合住宅の評価			-	-		-	
	4.1	モニタリング	—	-	-		-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-		-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓に加えて節水型便器を採用	4.0	0.40		-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70		-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30		-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.11		-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22		-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22		-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.22		-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-		-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS工法、OAフロアの採用	5.0	0.22		-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30		-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
	1	消火剤	—	-	-		-	
	2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50		-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		高効率な設備機器の採用によるCO2の削減	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1	大気汚染防止	燃烧機器の設置は無い	5.0	0.25		-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50		-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25		-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25		-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25		-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25		-	
3	周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
	1	騒音	—	3.0	1.00		-	
	2	振動	—	-	-		-	
	3	悪臭	—	-	-		-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70		-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-		-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30		-	
	3.3 光害の抑制			3.0	0.20		-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	3.0	0.70		-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	－	○	－	－	○	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○		－	○	○	－	○	○	○	－	－	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		－	－	－	○	－	○	○	○	－		－	○	－
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	－	－	－	－	－	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		－	－	○	－	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	－	3.0	－	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	－	－		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	－	－	－	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		－	－	－	－	1.0	－	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		－	1.0	1.0	2.0	－	－	－	－	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			－	－	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	2.0		－	1.0	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	－	○	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	－														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	9.0		1.0	－	－	3.0	3.0	－	－	2.0	－	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		－	－	－	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		1.0	1.0	－	－		－	－						
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0		2.0	－											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.3	窓の日射熱取得率(η) -			
U値(W/m2K)	窓システム 3.3	屋根 0.8	外壁 1.5	床 -	
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -	η AH -	
昼光率	0.0%				
自然換気有効開口面積率	0.0%				

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
--------	--------	----	--------	------	---------	-----

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量	0.0 VA/㎡
---------	----------

1.2.1 広さ感・景観

天井高	0 m
-----	-----

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース	－	レストスペース	－
------------	---	---------	---

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数	0 年
--------	-----

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔	15 年
--------	------

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔	0 年
--------	-----

3.1.1 階高のゆとり

階高	0 m
----	-----

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率	5.0%
-------	------

3.2 荷重のゆとり

床荷重	14700 N/m2
-----	------------

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数	54%	建物緑化指数	0%
--------	-----	--------	----

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率	43%	水平投影面積率	13%	地表面対策面積率	29%	舗装面積率	45%
-----	-----	---------	-----	----------	-----	-------	-----

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI _m	0.87	断熱等性能等級	対象外 相当
----------------------	------	---------	--------

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%
--------------	---------	-----------	------	-----------	------

通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%
-----------	------	-----------	------

3 設備システムの高効率化

BPI/BPI _m	非住宅	0.50	住宅	－	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
----------------------	-----	------	----	---	-----	------	------	------	-----	------

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率	0.0%
-------	------

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目	－	エコマーク商品	－	自治体指定の特定品目等	－
--------	---	---------	---	-------------	---

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率	0.0%
------	------

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
---------------	---	--------------	---

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
---------------	--	--------------	--

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		83% 隣棟間隔指標Rw 3.69																	
地表面対策面積率		48.3%		屋根面対策面積率		#REF!	外壁面対策面積率		0.0%										
見付面積Sb		3,161㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		165.38 m		基準高さHb		34.65 m									
緑地		3,950㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	